ISSN 0388－5569
VOL. 10 No. 1
（通巻28号）
1989. 2

Library News

山口大学附属図書館報

目次

「均衡、不確実性、および予測」
宜名真　勇 ……1
数字で見た図書館利用の動向 ……3
利用者の声 ……8
「資料展」 ……9
日　誌 ……10

「均衡、不確実性、および予測」

宜名真　勇

このタイトルは、私が約4年間（1982～1985、1987～1988）留学したカリフォルニア大学サンディエゴ校（ＵＣＳＤ）の経済学部を学問的に特徴づけるのに簡潔だが当を得た表現のように思われる。これは要するにＵＣＳＤの経済学部が計量経済学に強みを有する学校であるということである。それでは、予測はともかく、典型的な経済理論的概念である均衡や不確実性はどうかというと、ＵＣＳＤでは1980年代の初め頃、経済均衡の統計理論的表現であるCointegration や、回帰の残差のＡＲＭＡ表現であるＡＲＣＨモデルが開発され、その経済学的応用の有用性を実証的に示すべくfacultyと大学院生達の緊密な共同作業が現在進行中である。経済学者の理論モデルにおいて導かれる、財・サービス、証券、貨幣、労働等についての需給均衡の命題は、入手可能な統計データによって支持され得るか否かという問題に接近する枠組みを与えるのが前者であり、将来の資産収益率や可処分所得等の不確実性の変動が経済主体の現在の行動に及ぼす影響についての理論的命題を検証する手段を与えるものがＡＲＣＨである。

ミクロやマクロ経済学の分野においても専門雑誌でよく名前の知られた人は多数いるけれども、ＵＣＳＤに来て経済学の研究を志す者は、アメリカ人でも外国人でもまず例外なく上記二つの概念のいずれかないし両方に「毒される」。その結果は、純粋理論至上主義に傾くことであり、何日も何カ月もComputer Lab（アメリカの大学では年中24時間稼働が普通のようである）に詰めっきりでも、統計データから現実の経済の動きを直感的な形で読み取ろうとする者は居なくなる。経済学の研究者達が、経済モデルの実体であるところの現実経済に対する関心を持たないというのは不思議なことといえようが、アメリカ経済学の方法論のこれは一つの側面であるように思われる。即ち、分業体制による各専門領域の効率的な深化作業の促進である。アメリカ人が抱く、「単なる」専門家に対する尊敬の念の強さは、彼らとの日常の接触を通して感じさせられることであるし、そのようなモザイク的方法論が社会科学たる経済学にもごく自然に適用される社会的基盤が存在するのかも知れないが、日本の経済学界の風土の中である程度の時間を経た者にとっては、分業の観念そのものにある種の疑いを感じるのは避けがたいことであった。日本とよく似た体質（らしき）経済学をもつ韓国からの研究者とは、この点についての意見が完全に同じであった。もっとも、問題意識が細分化されればpaperの数は増える、これは事実であろう。そして若いassistant professor達が生きのびてtenureを獲得するには何本もの論文を、学校の指定するジャーナルに書かねばならない。専門化がここまで制度化されると、これがアメリカ経済学の大きな特徴となり、数学的精緻化が一層推し進められるのは時の勢いということになるであろう。となると、一体尊敬す

べき（或いは、あるべき）経済学者像とは、経済とそこに住む消費者・企業という経済主体の厚生水準・効率性について日夜心をくだく者なのか、或いは、操作可能性という点について極めて単純なモデルにおける分析的帰結を手にすることに深い知的満足を覚える者であるのかという（古く、そして依然として新しい）疑問につきあたることになるが、アメリカ人は平気である（ように見える）.（「地獄への道は善意で敷きつめられている」──フリードマン）。アメリカはいろいろいわれながらも依然として豊かで、軍事的に強大な国であり、大体少し誇張していうならば、アメリカはアメリカ人にとってのUniverseなのである。アメリカ人はやりたいことを自らの流儀で行うことに大衆の意志としてやましさを感じる人々のようには見受けられない。他国に勝手に進攻し、爆撃し、或いは恫喝するし、カナダとの自由貿易協定の交渉において、カナダ経済の機構の全てが議論の対象であるとして、内政干渉めいたことに無神経さを発揮したりもする（ＵＣＳＤのカナダ人達によると、アメリカに隣接する諸国は全てこのアメリカ的傲慢さの絶えざる犠牲者ということになる）。

日米の貿易・防衛問題の中にもこのアメリカ的偏見は随所に顔を出しているように思われるが、そのことはともかくとして、アメリカ的な精神的ゆとりをもてない国から来た者が、アメリカで経済学の何を学ぶべき、或いは、学べるであろうか。ＵＣＳＤでは、月曜日から金曜日まで毎日workshopが開かれ、主として他大学ないし研究所の研究者を招いて、１時間半の報告および討論が行なわれる。こうしてノーベル経済学賞受賞のサミュエルソン、トービンやデブルーをはじめ、テイラー、ターノフスキー、ハーウィッツ、雨宮、グリリカス、ブロック、フラービン、ダービー、ワイス、ヘンドリー、スティグリッツ、サージェント、伊藤その他の人々のセミナーに出席し、彼らの風丰にじかに接する機会を得、各分野の最新の研究についての情報にも日常的に触れることができた。しかし、何といっても通算４年のサンディエゴ滞在中、最も印象深かったことといえば、faculty達のもつ旺盛な知的好奇心ないし探究心であった。このことの為に、どちらかといえば味気ない抽象モデルの操作のみの日常の中に、一種爽やかなmotivationが与えられていたように思われる。学部構成員（facultyも大学院生も、またアメリカ人も外国人も）の間に、共同の研究グループへの帰属意識が芽生え、他分野の研究者からの示唆や助言がふんだんに与えられ、孤立感なしに、毎日が快い緊張感の中で過ごせるのも、源泉はこの知的好奇心を優先させる大学の雰囲気であろう。それともう一つあげるならば、日々生産されるpaperが、新しいテクニックの導入、新しい解釈、既存理論の思いきった否定等々の面での経済学構築に参加するものであるという彼らの意識である。既存の理論とテクニックに依拠して、現実経済のメカニズムのある面を解説してみせるというのは日本の経済学部の体質の一側面であるが、このような作業についてまわる精神状態と比べて、アメリカの研究者達の意気込みもエネルギーも数段まさっているように思われる。疑うことを知らないものの強みという見方もあり得ようが、彼らは既存の理論や実証のあらゆる可能性や問題点を疑い探究するのであり、モデル分析という科学的方法の妥当性については強い信頼を抱き、その点については疑問をもたない。その徹底しているところが、日本人に危惧の念を生ぜしめるのであろう。

４年間といえば長い期間である。そのように長期の留学の機会を与えてくれた山大経済学部に深く感謝するとともに、ＵＣＳＤで触れてきたものを、この全く異なる環境の中でどう生かしていくのか模索の日々である。

（経済学部助教授）

数字で見た図書館利用の動向

図書館がどのように利用されているか。そして、どのように利用が変化して来ているか。図書館を運営して行くうえで利用統計は、大変重要な要素の一つであると云える。

何処の大学図書館でも事業報告として、1年間の入館者数や貸出冊数等を、統計表にして報告を行っているが、具体的な事になると、大方の図書館員に云える事であるが、長い間の経験により、ある程度の利用状況を語る事は出来ても、適確な表現をするとなると困難になる事が多い。

この度、図らずも図書館報に掲載の機会が得られたのを契機に、今回は、基礎的データを中心に、過去に図書館運営委員会に報告した資料の利用統計をもとに、簡単な解説を述べてみることにした。

此処で掲げた統計表は5種類であって、表1は、山口大学が昭和45年山口地区に分散していた5分館を統合し、附属図書館（本館）として発足した時点から、昭和62年度までの各年度毎の利用実態を表「図書館年度別利用統計表」にしたものである。表1では、利用対象者の大部分を占める学生数が、学科の増設、大学院の設置、或いは学生の定員増等により年々増加していることがわかる。此処で入館者数が昭和53年度を境に約10万人が急激に増えているのは、昭和52年度までは開架閲覧室の入館者だけカウントしていたのを、昭和53年度から玄関に光学計測器を取付け、実質入館者数を記録し、一般閲覧室（自由閲覧室）等の利用者も数に加える様にした為であると思われる。

昭和57、58年度の利用状況を見ると、入館者数では、昭和57年度が前年度より約13,000人増加しており、また、昭和58年度は前年度より約30,000人減っている。これは昭和58年度の図書館増改築工事に伴う休館を予測して、昭和57年度から特別な貸出措置を講じた事によると考えられる。

増改築後は、下記のように既設の面積に対して約1.5倍も増加し、閲覧座席数も既設の座席数より273席増え、空調設備も完備して快適な環境が出来た事から、時間内は勿論の事、時間外の利用もかなりののびを示している。

・面　積　延8,750.22㎡

増加推移

区　分	既　設	増　築	計	増加率
建面積	2,110.12㎡	638.82㎡	2,748.94㎡	1.30
延面積	5,636.07㎡	3,114.15㎡	8,750.22㎡	1.56
座席数	565席	273席	838席	1.48
収蔵可能冊数	423,000冊	337,000冊	760,000冊	1.80

時間外開館については、昭和54年前期までは、平日1時間、土曜日3.5時間であったが、同年後期から平日は20時までの3時間、土曜日は16時30分までの4時間と延長した。このように開館時間の延長によって、図書館に居られる時間が増えた為、貸出者数、貸出冊数も増加の傾向が現われている。

そこで、「過去5年間の月別入館者数」で1日の平均を見ると、数字のうえでは、表2のようになる。1年のうち学生の授業のある月と、休業の月、或いは試験の月とに分けてみると、授業のある月は5、6、10、11、12、1月であり、この5、6、10、11、12、1月を合せた1日の平均は、昭和59年度849.1人、昭和60年度830.8人、昭和61年度835.7人、昭和62年度898..4人となり、授業、休業、試験等の月と云うような考慮をはらわずに、1年を通して平均した数とではあまり差がなかった。当然のことであるが、9月（前期）と2月（後期）の試験期には、自習のため一般閲覧室の利用者が多くなる。即ち、何処の大学にも見られる現象である。そして1年1年が休業、授業、試験、休業、授業、試験と云うサイクリックな動きになっているので、これを更に昭和59年度から昭和62年度の各月で見ると、授業のある月では6月が一番入館者が多く、4年間について見ると、6月だけでは1日平均975.9人、授業のある月5、6、10、11、12、1月では1日平均854.9人、そ

表　1

図書館年度別利用統計表

年度	開館日数		利用対象者数				入館者数			利用状況					
										貸出者数			貸出冊数		
	時間内	時間外	学生	教官	職員	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計
45	252	175	3.539	264	340	4.143	42.550	5.096	47.646	13.757	2.116	15.873	28.135	2.827	30.962
46	242	211	3.602	274	329	4.205	52.880	9.182	62.062	20.193	4.148	24.341	48.483	5.752	54.235
47	288	213	3.644	281	323	4.248	58.952	11.130	70.082	22.255	5.530	27.785	33.119	7.604	40.723
48	264	184	3.801	297	323	4.421	79.741	14.308	94.049	24.778	6.379	31.157	33.925	8.450	42.375
49	252	200	3.963	300	318	4.581	81.575	15.571	97.146	25.200	7.011	32.211	35.420	9.524	44.944
50	252	197	4.151	304	312	4.767	78.726	14.459	93.185	25.716	6.445	32.161	36.717	8.879	45.596
51	248	191	4.377	311	305	4.993	78.234	14.809	93.043	26.243	6.379	32.622	37.440	8.755	46.195
52	291	188	4.475	314	305	5.094	67.845	12.358	80.203	23.122	6.217	29.339	32.974	8.534	41.508
53	282	188	4.698	323	307	4.517	167.456	23.501	190.957	20.943	5.764	26.707	30.133	8.192	38.325
54	272	185	4.857	341	312	4.952	178.864	18.979	197.843	21.475	5.441	36.916	31.092	7.574	38.666
55	264	192	5.170	357	313	5.521	168.582	22.284	190.866	17.856	5.539	23.395	28.593	8.949	37.542
56	259	188	5.368	372	322	6.062	166.154	23.205	189.359	18.748	6.319	25.067	31.038	10.503	41.541
57	266	192	5.443	379	327	6.128	173.785	28.293	202.078	21.158	6.017	27.175	37.357	10.002	47.357
58	196	163	5.657	381	325	6.353	136.606	35.051	171.657	18.164	5.248	23.412	37.328	10.378	47.706
59	263	193	5.726	381	328	6.431	191.653	31.320	222.973	24.158	5.983	30.141	43.500	10.929	54.429
60	290	194	5.669	381	322	6.372	201.236	33.323	234.559	22.409	6.275	28.681	40.919	11.814	52.733
61	286	197	5.732	383	318	6.433	203.753	33.461	237.214	23.097	6.565	29.662	43.311	12.144	55.455
62	290	194	5.831	389	314	6.534	211.165	38.080	249.245	24.407	6.721	31.128	45.116	12.313	57.429

〔注〕○　学生数には、医進１、２年生と工１年生を含む。
○　教官、職員数は、附属小、中学校及び医、工学部を除く。
○　図書館は、分館を含む。
○　昭和45～46年度の利用状況の数字は、研究室貸出冊数を含む。

表 2　5年間の月別入館者数

月	58年度			59年度			60年度			61年度			62年度		
	開館日数	入館者数	1日平均	開館日数	入館者数	1日平均	開館日数	入館者数	1日平均	開館日数	入館者数	1日平均	開館日数	入館者数	1日平均
	日	人	人	日	人	人	日	人	人	日	人	人	日	人	人
4	24	13,298	554.1	24	13,674	569.8	25	15,545	621.8	24	16,240	676.7	25	17,316	692.6
5	24	22,743	947.6	24	21,636	901.5	24	22,333	930.5	24	22,240	926.7	24	22,542	939.3
6	4	4,172	1043.0	24	22,173	923.9	23	22,608	982.9	24	23,002	958.4	25	25,906	1036.2
7	6/6～9/7まで増改築工事のため休館			25	23,574	943.0	27	19,473	721.2	27	18,909	700.3	27	18,422	682.3
8				16	5,118	319.9	20	7,657	382.8	25	8,234	343.1	26	8,780	377.7
9	18	29,712	1650.6	23	34,684	1508.0	23	41,735	1814.6	24	42,039	1751.6	24	43,429	1809.5
10	23	12,399	539.1	24	15,967	665.3	24	16,374	682.3	24	17,629	734.5	24	18,918	788.3
11	23	14,007	609.0	23	17,624	766.3	23	17,582	764.4	23	16,717	726.8	23	18,249	793.4
12	21	13,849	659.5	20	16,915	845.8	21	16,182	770.5	22	18,767	853.0	22	20,190	917.7
1	20	15,091	754.6	18	18,622	1034.6	21	17,910	852.9	21	17,377	827.5	21	19,075	908.3
2	24	35,624	1484.3	23	29,637	1288.6	23	33,503	1456.7	23	31,341	1362.7	23	32,608	1417.7
3	15	2,895	193.0	17	3,349	197.0	16	3,657	228.6	25	4,719	188.8	26	3,810	146.5
計	196	171,657	875.8	263	222,973	847.8	290	234,559	808.8	286	237,214	829.4	290	249,245	859.5
対象学生数		5,780			5,721			5,777			5,899			5,986	

表 3　利用者が1年間に入館した平均回数

年度	利用対象者数(人)	入館者数(人)					
	(A) 合計	(B) 時間内	B/A	(C) 時間外	C/A	(D) 合計	D/A
			(回)		(回)		(回)
53	5,021	167,456	33.4	23,501	4.7	190,957	38.1
54	5,198	178,864	34.4	18,979	3.7	197,843	38.1
55	5,527	168,582	30.5	22,284	4.0	190,866	34.5
56	5,740	166,154	28.9	23,205	4.0	189,359	32.9
57	5,822	173,785	29.8	28,293	4.9	202,078	34.7
58	6,038	136,606	22.6	35,051	5.8	171,657	28.4
59	6,107	191,653	31.4	31,320	5.1	222,973	36.5
60	6,050	201,236	33.3	33,323	5.5	234,559	38.8
61	6,115	203,753	33.3	33,461	5.5	237,214	38.8
62	6,220	211,165	33.9	38,080	6.1	249,245	40.4

注記　表1で「利用対象者数」に大学の構成員として職員数もあげているが、職員の1年間の利用は極めて僅かであるため、表3ではのぞいてある。

表 4

(身分別にみた) 館外貸出数及び貸出冊数 (1日平均)

年度	開館日数	貸出者数(人)					貸出冊数(冊)				
		学生	平均	教官	平均	合計	学生	平均	教官	平均	合計
53	282	25,796	91.5	911	31.6	26,707	36,246	128.5	2,079	13.6	38,325
54	272	26,198	96.3	718	37.9	26,916	36,924	135.8	1,742	15.6	38,666
55	264	22,592	85.6	803	32.9	23,395	35,914	136.0	1,628	16.2	37,542
56	259	24,175	93.3	892	29.0	25,067	39,824	153.8	1,717	15.1	41,541
57	266	(記録にない)				27,175	(記録にない)				47,357
58	196	22,761	116.1	651	30.1	23,412	46,149	235.5	1,557	12.6	47,706
59	263	29,240	111.2	901	29.2	30,141	52,333	198.9	2,096	12.5	54,492
60	290	27,700	95.5	981	29.6	28,681	49,851	171.9	2,883	10.1	52,733
61	286	28,591	100.0	1,071	26.7	29,662	53,256	186.2	2,199	13.0	55,455
62	290	30,115	103.8	1,013	28.6	31,128	55,157	190.2	2,272	12.8	57,492

表 5

(時間帯にみた) 館外貸出者及び貸出冊数 (1日平均)

年度	開館日数	館外貸出者数(人)					館外貸出冊数(冊)				
		時間内	平均	時間外	平均	合計	時間内	平均	時間外	平均	合計
53	282	20,943	74.3	5,764	20.4	26,707	30,133	106.9	8,192	29.0	38,325
54	272	21,475	79.0	5,441	20.0	26,916	31,092	114.3	7,574	27.8	38,666
55	264	17,856	67.6	5,539	21.0	23,395	28,593	108.3	8,949	33.9	37,542
56	259	18,748	72.4	6,319	24.4	25,067	31,038	119.8	10,503	40.6	41,541
57	266	21,158	80.0	6,017	22.6	27,175	37,357	140.4	10,002	37.6	47,357
58	196	18,164	92.7	5,248	26.8	23,412	37,328	190.4	10,378	52.9	47,706
59	263	24,158	91.9	5,983	22.7	30,141	43,500	165.4	10,929	41.6	54,429
60	290	22,409	77.3	6,275	21.6	28,681	40,919	141.1	11,814	40.7	52,733
61	286	23,097	80.8	6,565	23.0	29,662	43,311	151.4	12,144	42.5	55,455
62	290	24,407	84.2	6,721	23.2	31,128	45,116	155.6	12,313	42.5	57,429

して休業の月４、７、８、３月の１日平均は502.6人、試験の月９、２月の１日平均は1,553.6人となる。こうして見ると、各月の入館者数は、各月の１日平均入館者数に開館日数を乗じることによって、或る程度予測することが出来ることになる。また、各月の１日平均の入館者数であるが、平日と土曜日とでは開館時間が違うので、正確には月曜日から金曜日までと、土曜日だけの１日平均入館者数に分ける必要がある。

表３は、過去10年間の入館者を、時間内（９時から17時まで）と、時間外（17時から20時まで）に分けて表にしたものである。全体を見ると、昭和58年度を除けば、年々増加の傾向にあり、年間平均１人が36回利用していることになる。時間内で31回、時間外では５回である。

表４、５は、身分別、時間帯別に見た図書の貸出者数と貸出冊数である。昭和57、58年度は、前述のように図書館増改築の影響を受けているので、この両年度を除けば、教官の利用が年々増加している。また、時間帯で見れば時間内はさほど変らないが、時間外では貸出者数、貸出冊数とも増えている。

こうして眺めて見ると、総体的に少しづつ上昇の傾向にあり、この図書館はまだ成長期にあると思える。

現代の大学図書館は、電算システムを基本として研究機能も重視した方向で、早い速度で進んでいる。図書館が教育、研究にできる限り援助できるよう改善、充実に努め、昭和63年は色んな意味で充実した形で動いてきたところである。それが今後の図書館利用にどのような効果が表われるか。次回は更に利用者を学部別、貸出図書の分野別等の報告ができればと考えている。

終りに、学内利用者の理解と認識を深めて頂くよう切に望むものである。

（閲覧係長　伊　藤　　巌）

利用者の声

人文科学研究科修士１年　山　根　勝　彦

私は本稿で以下の三つの点について順次述べてみたいと思う。すなわち、第一に複数主題に渡る図書の分類配架について、第二にオンライン検索の手引きについて、第三に学生発行物について、の三つの点である。

まず第一の点については、複数主題に渡る図書が二冊以上ある場合には主題別に配架できないかということである。例えば、藪内清氏の『中国文明の形成』という図書は現在科学史の書架に二冊置かれている。確かに藪内氏は中国科学史の大家であり、同書の内容からして科学史に分類されていること自体に問題はない。但し、同書は中国思想史の図書としても有用であり、中国思想の書架にも一冊置いていただければ有難いということがある。人文科学と自然科学の書架は離れているだけにせっかく有用な本がありながら気付かないというのでは残念である。ここでは筆者の関心から一例を挙げたまでである。

次に、オンライン検索の手引きについては操作手順の記載に少し不備があるように思われる。例えば、著者名からの検索には姓、コンマ、名と入力するように記されているが、コンマ入力の際には英数変換キーを押さなければならないことまでには触れられていなかったように記憶している。こうしたことはパソコン、ワープロ等を使い慣れた人には常識に当たることかもしれないが、そうでない人にとっては操作の上で支障をきたすことになる。そうした事態を避けるためにも、手引き書の記載には初心者がつまずきそうな箇所を考慮して基本的な変換操作まで明記されていることが望まれる。

最後に、学生発行物については既に文芸同人会発行の『山大文学』が雑誌閲覧ルームに展示されている。学生発行物は他にもあるが特に学内公認新聞の『山口大学新聞』や文化会発行の『文化会新聞』は学生の視点からする大学野史として重要であると思われる。それらも含めて大学図書館で重要と判断されるものについては、必要に応じて展示及び保存整理を行うなど、図書館活動の一部としてこれからも継続していただきたい。

農学部獣医学科５年　大　上　美　穂

私が初めて山口大学附属図書館を利用してから、はや５年が過ぎようとしています。３年生までは本当の意味での利用者でしたが、４年生より夜間開館のアルバイトを始めたため、今は利用し、かつ働いているという状態です。

この５年間で起ったもっとも大きな変化は、書籍、雑誌などの検索システムが充実してきたことだと思います。最近ではコンピューターも導入され検索語を入力すると、それに関連した書籍、雑誌などが画面に表示されるようになっています。これは利用する側の私達にとっては大変ありがたいことです。しかし、入力されている冊数はまだまだ僅かなものであるので、今後もっと広範囲の検索ができるようになればと願っています。

反対に、ほとんど変化が起らなかったと思われることは学生の利用状況です。試験期間はいつも溢れるばかりの人ですが、それ以外の時期はその$\frac{1}{5}$くらいしか来ません。カウンターで貸出処理を一年半やっていて気づいたことは、試験などがない普通の時に来る人の約６割は決まった人だということです。私の友人の中には驚くことに、まだ図書館を利用したことがないという人までいます。そのような人たちになぜ利用しないのかと尋ねてみると、次のような答えが返ってきました。（多い順）

①必要としている本が少ない。

②古い本が多い。

③図書館は静かすぎて体質的に合わない。

以上の３つが多かった答えでした。③については個人的なことなのでどうしようもありません。①、②については私も同じような意見をもっていました。しかし、アルバイトをするようになり、図書館の職員の方々からいろいろおききして初めてわかったのですが、これらについては職員の方たちも頭を悩ませているのだそうです。図書の購入を希望していても、予算の都合上、購入できるものは限られているということでした。

しかし、自分の必要とする本が充分にそろっていることはやはり難しいことのように思われます。したがって私たちは、ただ図書館にあるものを利用するというだけではなく、もっと上手に図書館を利用するべきだと思います。本当に利用しようと思えば、もっと沢山の利用法というものがあるのではないでしょうか。私も今後もっと有効に図書館を利用していきたいと思っています。

「資料展」

展示資料　肖像画にみる古代の人々
期　　間　１月23日～３月４日
場　　所　附属図書館（本館）玄関ホール

経済学部の前身「山口高等商業学校」から引き継いだ資料の中に、鎌倉時代以前の人物について画かれた肖像画 100 枚１セットがある。Ａ４版の用紙に、一筆一々緻密に画かれた彩色日本画であり、そのいで立ちや服装を見ているだけでも楽しい。明治期に作成されたものと推察するが、その出所は不明である。額入りで、閲覧室の壁にでも10枚づつ掛けて展示していたのか「読史先哲肖像額面10枚」と墨書されたカードが同封されていた。

今回は、奈良時代までの人物33名について展示する。それらの人々の故事来歴を思いおこし、また古代の多くの人々の中から、これらの人を選んだ選者の考えを推察することも楽しいことではないでしょうか。古代日本が朝鮮や中国と深く係わっていたことも垣間見ることも出来よう。

（記紀の人々）

日本武尊　　ヤマトタケルノミコト（景行天皇時代）
武内宿禰　　タケノウチノスクネ（景行・應神天皇時代）
壹岐直真根子　イキノアタイマネコ（應神天皇時代）
的戸田宿禰栢　イクハトダノスクネタテ（應神天皇時代）

阿知使主　　アチノオミ（應神天皇時代）
菟道稚郎子　　ウジノワキイラツコ（應神・仁徳天皇時代）
衣通郎姫　　ソトオリノイラツメ（允恭天皇時代）
物部大連目　　モノノベノオオムラジメ（雄略天皇時代）
大件大連室屋　オオトモノオオムラジムロヤ（雄略天皇時代）
紀小弓　　キノオユミ（雄略天皇時代）
少子部連雷　　チイサコベノイカズチ（雄略天皇時代）
稚足姫皇女　　ワカタラシヒメノミコ（雄略天皇時代）
秦酒公　　ハタノサケノキミ（雄略天皇時代）
伊與来目部小楯〔山部大連小楯〕　イヨノクメベノオダテ〔ヤマベノオオムラジオダテ〕(顕宗天皇時代)
物部大連尾輿　モノノベノオオムラジオコシ（安閑天皇時代）
物部大連俺麁火　モノノベノオオムラジアラカビ（継体天皇時代）
大伴大連金村　オオトモノオオムラジカナムラ（継体・欽明天皇時代）
王辰爾　　オオシンジ（欽明天皇時代）
大伴連狭手彦　オオトモノムラジサデヒコ（欽明天皇時代）
（飛鳥時代から奈良時代の人々）
秦造河勝　　ハタノミヤツコカワカツ（推古天皇時代）
聖徳太子〔厩戸皇子〕　ショウトクタイシ〔ウマヤドノミコ〕（573～621）
藤原連鎌足　　フジワラノムラジカマタリ（614～669）
藤原不比等　　フジワラノフヒト（659～720）
柿本人麻呂　　カキノモトノヒトマロ（7世紀後半）
粟田真人　　アワタノマヒト（　　～719）
舎人親王〔崇道盡敬〕　トネリシンノウ〔スウドウジンケイ〕（676～735）
大野東人　　オオノノアズマンド（　　～742）
阿倍仲麻呂　　アベノナカマロ（698～770）
吉備真備　　キビノマキビ（693～775）
藤原清河　　フジワラノキヨカワ（706～776）
和気清麻呂　　ワケノキヨマロ（733～799）
藤原百川　　フジワラノモモカワ（732～779）
淡海三船　　オオミノミフネ（722～785）

（参考文献）

1　大人名事典　　全10巻　平凡社
2　日本古代人名辞典　　全7巻　吉川弘文館
3　上代語辞典　　丸山林平著　明治書院
4　日本歴史大辞典　　全12巻　河出書房

日　　誌

10月 5日（水）～7日（金）　第29回中国四国地区大学図書館研究集会（於高松市）
10月14日（金）　工学部分館図書委員会
10月20日（木）～21日（金）　第24回日本医学図書館協会中国四国部会（於香川医科大学）
10月27日（木）　医学部分館図書委員会
11月17日（木）　第2回国立大学図書館協議会シンポジウム（於関西地区大学セミナーハウス）
11月17日（木）～18日（金）　昭和63年度国立大学図書館協議会中国四国地区協議会係長会（於松山郵便貯金会館）
11月24日（木）～25月（金）　第9回大学図書館研究集会（於法政大学）
12月 6日（火）　第53回附属図書館運営委員会
〃　〃　〃　第25回本館図書委員会
12月15日（木）　工学部分館図書委員会
1月26日（木）～27日（金）　昭和63年度国立大学附属図書館事務部長会議（於鹿児島大学）

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753　山口市大字吉田　電話（0839）22－6111　内線788